

経営と健康



運は天にあり、手柄は足にある

戦国武将に学ぶ運の法則（上）

講談師 一龍齋貞花

「後輩のあいつがなぜ出世するんだ」
「俺は運が悪い」

サラリーマンを経験した私は、そんな状況を見ているし、他所でも良く耳にする。本当に運が悪いのか。後輩の成績がいいのか、上司の受けがいいのか。ヨイショを喜ぶ上役、意見具申を認めてくれる上司もいる。上役の性格を見極めるのも大切だ。

プロ野球の場合、負け試合にあいつを使つてやるかと起用され活躍し、以後スタメンに起用された選手も少なくない。ベンチで、大声で声援、「うるさい」と落合博満中日監督から巨人に追い出された大西崇之さんは、その後巨人、中日、ソフトバンクで三塁コーチ。

同じく井端弘和さんも中日から巨人へ。コーチを経て今や全日本の監督。もし中日にずっといたら二人共今はない

かもしれない。星野仙一さんもドラフトで約束されていた巨人に指名されていたら、その後の中日、阪神、楽天での監督はなかったのではないか。なにくそとバネにして働き運を呼び込んだ。

大相撲の場合は運がはつきり判る。大関で優勝したものの内容が悪く、もう一場所様子を見ての声もあったが、照ノ富士引退、横綱不在はまずいと昇進した豊昇龍、懸念通り横綱一場所金星3ツ与えて5勝5敗5休場、運が良かったのに。金星は持ち給金に加算され多額の懸賞金を手に入れ実においしい。二場所目も前半金星2ツ与えたが何とか12勝3敗。3場所目はまた1勝4敗10休。大の里は14勝1敗実力で優勝し横綱昇進。前頭筆頭で勝ち越しても役力士が落ちてこないと据え置きもある、運が悪い。

上杉謙信は「悲運の名将」か？
世間では謙信を、悲運の名将と捉える向きがあるが果たしてそうか。

謙信は篤い信仰心から「女犯はいかん」と、側女どころか本妻も持たず、自分は毘沙門天の化身で不死身だと信じ、後継者も決めていなかった。その一方で童子と関係して性病に罹ったことがある。仏法に「男犯はいけない」と書かれていない。織田信長が前田犬千代（利家）を可愛がった時、多くが羨ましいと言っている。戦場は男社会、そうした例が少なくない。第二次大戦中にも将校が、という記録もある。お寺の住職が若い僧侶を可愛がったとか、西欧の聖職者の中にもといわれている。そして「不飲酒戒」という禁忌はあるものの酒だけはやめられず、脳卒中で死

亡している。また「義」を大切にする余り、戦に勝つても領土を得ようとしな。家来は戦の手柄に応じて禄高などを与えてもらえるもののに、それでは死に物狂いで戦つてもなんの甲斐もないということになる。重臣の一人が謀反を起こしている。

会社でも、働きのいい社員には役職を与え昇給させる。そういう視点から見ると、謙信は失格ということになる。だが宿敵の武田に塩を送ったことが美談といわれる。無償ではなく貿易だが武器供与とは違う。強いことNo.1といわれる中に敵に塩を送ったことが名將の誉れ高い謙信と、人柄の徳になった運だが、謙信語録に

“運は天にあり、手柄は足にある。”
足にあるは、やはり努力、働くことを意味しております。もうひとつ

「死なんと戦えば生き

生きんと戦えば

必ず死すものなり」

これも謙信の残した言葉です。

どんな状況に置かれても、この局面を必ず打開するんだという強い志と気概をもつこと。それが運を招くことにつながるのでしょう。

やっぱり謙信は名将ですね。

私が大学で客員として週一コマ担当していた時、

「たとえ望みの会社に就職できなかったとしても、また気に入らない職場だとしても、嫌だからと辞めたら次の会社も嫌だからと辞めることになってしまふ。辞めて就職したものの元の会社がよかつたという声もよく聞く。一度がむしやらになつて働いてほしい。そうすれば何かがつかめるはず。上司も見直し評価してくれるだろう。それでも駄目ならそれから転職すればいいじゃないか」と、私のつたない経験から話しました。住込み製造の仕事から「自分にもっと向いている仕事があるはずだ」と転職し販売、営業関係に。上司とそりが合わずやけになったことがあったが、

「くそつ、負けるな」とがむしやらにやつたら、他の上司が評価してくれたことがあった。端からみればたいしたことではなかつたであろうが。その後自分が本当にやりたいことと講談の世界に入りなるとかおまんまを頂いています。自分の話になりお許し下さい。

武田信玄が天下が取れなかつた運

謙信善玉、武田信玄悪玉のように描かれているケースが多いが、謙信の重臣が反旗をひるがえしたのに対し、信玄存命中は二十四将の一人も裏切つた者がいない。

信玄の素晴らしい点は、敵の力や特徴など、自分がつかんでいる情報の全てを家来に教えてやる。これによつて軍の誰もが、相手の旗印を見ただけで、この相手なら正面から戦いを挑んで大丈夫とか、無理せず引いた方がいいといった判断が出来る。

信玄は、孫子、呉子の兵法はじめ、六韜三略を会得し、引矢の聖ひきやのせいといわれたのも学ぶ努力をしたからこそ。

惜しむらくは優秀な長男義信を死に追いやつたこと。海のない甲州、静岡へ進出を図る。当時駿府の今川とは不可侵条約を結び、義元の妹を長男義信の

嫁に迎えていたから、「父上約束が違います」と義信が苦言を。「なにを言うか」と激怒し謹慎、そして義信は自害。家来たちは義信の死を嘆き悲しんだ。優秀な後継者を失つた悲運。

元亀3年12月、胸を患つていたが、ガンであつたか。小雪まじりの寒さの中で体調を崩し三方ヶ原の陣中で露と消えた。半農半武士とあつて刈り取りが終つてからの出陣であつたこと、宿敵謙信との戦いで最高理解者弟信繁を失つたこと、それ以上に十年以上の永きにわたつて謙信と戦わずもつと早く都を目指したなら天下が取れたと思つている。好敵手を意識し過ぎたこと。

そして「三年の間喪に服し戦つてはならん」と遺言したものの、後継者となつた側室諏訪姫の生んだ四郎勝頼は、「父に負けてなるものか」と、剛将であつただけに遺言を守らず、重臣の止めるも聞かず長篠の無謀な戦いによつて名門武田家は滅亡。義信亡き不運であつた。

後継者早世の不運——平清盛

「平家物語」をはじめとして、悪玉の代表のように書かれている平清盛。

清盛を倒さんと兵を挙げたものの敗れた源義朝。平治の乱に勝つた清盛は、

義朝の子頼朝を殺さんとしたが、継母池の禪尼の願いを受け入れ伊豆へと配流。常盤御前の美貌に魅せられ愛人とした代償に、今若、乙若、牛若の三人の子も助けてしまった。

善玉に描かれる源氏は、義朝は父為義と四人の子を殺害し、義賢は甥の義平に、義平の子木曾義仲はいとこの頼朝に討たれ、頼朝は弟範頼、義経を、政子も我が子頼家を、実朝は甥の公暁にと一族同士が殺し合つている。敵対する者は殺すとはいえ、いかな戦国でも類をみない。清盛は一門を栄えさせた。だが「平家にあらずんば人にあらず」と義弟時国が豪語したことが反感を買ひ、後白河法皇が平家打倒の糸を引いていた事が判明するや、法皇を幽閉しようとしたが長男重盛に諫められ思い止まつたものの、重盛が死ぬや法皇二派を一気に追放、入道している清盛が衣の下から鎧をちらつかせる専横ぶり。重盛が存命であつたならと惜しまれる。

自分の健康はもとより後継者の健康が運を左右します。溺愛することなく帝王教育をして下さい。運を左右する恐れがありますから。